

# 宮城山岳通信 第22号

## 目次

巻頭言	支部長 . . . . . 2 頁
定例役員会報告	事務局 . . . . . 3~4 頁
宮城支部山行報告	
☆秋季山行（北屏風岳）（共益事業）	草野洋一 . . . . . 5 頁
☆晩秋山行（五社山）（共益事業）	太田 正 . . . . . 5 頁
☆初冬山行（葉菜山）（共益事業）	加藤知宏 . . . . . 5~6 頁
令和2年10月～令和2年12月の行事予定	事務局 . . . . . 6 頁
編集後記	会報・編集出版委員長 . . . . . 7 頁

## 巻 頭 言

安全な登山  
支部長 富塚和衛

我が家にも世間並みに猫の額ほどの庭がある。その庭には、これも月並みに紅葉、山茶花、万作などの庭木が植えてある。このうちの1本の庭木に、数年前にホームセンターから購入した小鳥用の巣箱を取り付けた。まだ、この巣箱で雛が孵った事はないが、ここ数年、積雪があった時などに、巣箱に設えてある10cm四方ほどのベランダに、これもホームセンターで買い求めた小鳥用の餌を撒いている。この餌を求めて雀(稀にヒヨドリ、ヤマバト)がやってくる。始めのうちは餌を撒いても、すぐには餌場に降りてこない。梢や隣の家の雨どいなどの高い処に泊まり、辺りの様子を伺っている。身の安全を確認しながら、遂には餌場に1羽、2羽と舞い降りてきて、餌を啄み始める。その一連の雀たちの採餌行動をつぶさに観察していると、雀たちも身の安全を確保するために、神経を尖らせて周囲に気を配っている様子が見て取れる。雀たちにも、地面近くは多くの危険が待ち受けていることを実体験として身に染みて覚えているのかも知れない。餌を啄む時も、啄んではきよきよ、啄んではきよきよと餌に夢中になることはない。また、危険を感じ取った雀が飛び立つと、瞬時に他の雀たちが一斉に飛び去って行く。雀たちも、身の安全を確保する為に、大袈裟に言えば、集団としてのある行動規範(雀社会のルール)を基に日常の採餌行為を行っていることが窺い知れる。然し、能々観察していると、雀社会でも集団行動に背を向けて単独行で暮らす者がいるのも事実のようだ。集団が飛び立っても、悠然として、餌を啄み続けている兵がいるのだ。雀達もその性格、個性は人

間社会と同様に十羽十色の様だ。

話は一変するが、登山愛好家は、誰しものが自身の経験・知識・技量に応じて、そのレベルはいざ知らず、安全な登山を心がけて計画立案し、実行する。だが、悲しい事に、遭難事故は、後を絶たない。「安全な登山とは」と問われて即答できる登山愛好者は、恐らく、数少ないのではないだろうか。この永遠のテーマに、榎有恒が、「山の心(毎日新聞社:昭和49年発行)」の山岳十話の章で、「安全な登山のために」と題して述べている。以下が抜粋文である。『安全な登山とは自分の力量を超える行動をしないと言う、極めて平凡な事である。然し、この事は現実には行い難く、また、なかなか行われない事である。なにゆえにこの平凡なことが行い難いのであろう。自分の力量は、多くの経験のテストを重ねて知ることであると同時に、山についての経験はどこまでいっても終わりが無いからである』

安全な登山を目指すためには、自分の力量がどのレベルにあるのかを常に顧みることの重要性を教えてくれている。体力に任せた登山、経験を過信した登山等への戒めでもあるような気がする。

人間も雀社会でも見られるように、その個性は、十人十色である。登山には安全指数的な分かりやすい数値化したものはない。安全な登山は各自の思考によるところが大きく、安全に対する考え方のレベルは十人十色ではなかろうか。確実に安全である登山などない。少なくとも、自然現象である天候の予測も加味した登山計画が力量に余裕ある時にのみ安全な登山の確率が高まる事になるのは間違いのない事であろう。臨機応変、機に臨んで退く勇氣こそ、「安全な登山」の要諦ではなかろうか。

## 【役員会議事録】

☆令和2年 10 月役員会議事録

日 時:10 月 19 日(月)18:00～

場 所:仙台市川平センター 5F 会議室

出席者:富塚支部長、草野、横山、富塚(真)、  
千葉、千石、柴崎

計 7 名

### 《報告事項》

#### イ 総務・財務委員会からの報告

- ・支部合同会議報告について
- ・グレートマツバクス仮報告書について
- ・本部主催晩餐会について(中止)  
ついて(3月26日)

#### ロ 山行集会委員会からの報告

- ・9 月夏山山行実施結果について
- ・10 月秋季山行実施結果について
- ・11 月晩秋山行のお知らせについて

#### ハ メディア委員会からの報告

宮城支部HPのツイッター開始について

#### ニ 会報・編集出版委員会からの報告

- ・宮城山岳通信第 21 号の編集進捗状況に

### 《審議事項》

#### ①全国山岳古道調査について

支部として参加することに決定、詳細は  
次回以降の役員会で詰めることに。

#### ②登山計画書に関する取扱い基準の一部 改正について

登山計画書に記載してある山行ルート  
を事情により変更した場合の連絡につ  
いての規定を追加

### 《その他》

特になし

以上の事項について承認または了承される。  
(事務局報告)

☆令和2年 11 月役員会議事録

日 時:11 月 19 日(木)18:00～

場 所:仙台市川平センター 5F 会議室

出席者:富塚支部長、草野、柴崎、高橋、富塚  
(真)、千葉、千石、鳥山

計 8 名

### 《報告事項》

#### イ 総務・財務委員会からの報告

- ・「山」連載、地域発「山の日レポート」の寄稿  
について
- ・令和 2 年度第 6 回(10 月度)理事会議事録  
について
- ・宮城支部所属会員数について(本部資料)

#### ロ 山行集会委員会からの報告

- ・12 月初冬山行のお知らせについて

#### ハ 会報・編集出版委員会からの報告

- ・宮城山岳通信第 21 号の刊行について
- ・宮城山岳第 24 号の発行予定について

### 《審議事項》

#### ①全国山岳古道調査について

・調査に参加することとし、県内の山岳古  
道について情報収集し、概要を取り纏め  
推薦候補を次回以降の役員会で検討す  
る事とした。

#### ②次期宮城支部執行体制について

・日本山岳会宮城支部規約の規定により、現  
支部長は任期を終えることになる。その  
後任者の人選が必要となるが、支部長は  
役員の互選によると規定されていること  
から、支部長経験者も含め、今後の役員  
会で候補者を絞っていくこととした。

また、現支部長が兼務している事務局長  
及び各種委員会委員長についても、その  
後任の人選を詰めて行く事とした。

会計担当についても、退任の意向である  
ことから同様の対応を検討する事とした。

以上の事項について承認または了承される。  
(事務局報告)

☆令和2年度12月役員会は、第3波の新型コロナウイルス感染拡大により「緊急事態宣言」が発出された事もあり、大事を取って中止する事とした。  
(事務局報告)

### 【宮城支部山行報告】

☆秋季山行(共益事業)

実施日 令和2年10月13日(火)  
山域 南蔵王・北屏風岳(1,825m)  
コース 南蔵王登山口—前山—杉ヶ峰—  
芝草平—北屏風岳  
往路を下山  
参加者 富塚和衛、富塚真味子、鳥田笑美、  
草野洋一(以上会員)  
鳥田伊志、津久井宏、多田孝徳、  
佐藤富士子(以上支部友)  
報告者 草野洋一

この山行は7月に蝉時雨山として計画しましたが、大雨のため中止。再度8月に夏山山行として計画しましたが、当日、登山口に向かったところ道路工事に阻まれて実行できませんでした。そこで計画完遂をと再度計画しました。

遠刈田温泉の遠刈田公民館の駐車場に7時半集合。二台の車に分乗して刈田峠へ。道路わきの駐車スペースは道路工事車両が止まっていた止められなかったが、登山口に近いうちに車2、3台止められるスペースがあって駐車することができた。前日まで雨だったが、当日は洗濯日和の予報で期待したのだったが、登山口に着いたら小雨だった。全員合羽を着て8時30分出発。小雨から霧雨になり、芝草平についても霧雨。ガスがかかって周囲の

景色なにも見えないので小休止して出発する。北屏風岳に11時半着。紅葉した蔵王連山の展望を期待していたが、相変わらずガスがかかっていて頂上から周辺の山を見ることができなかった。集合写真を撮って早々に往路を下山する。芝草平で昼食をとる。このあたりから雨も上がってベンチでゆっくりと食事をとることができた。ただ午前中よりも気温が下がってきて、合羽を着ていてもサムサガ身に染みてきたので予定より早く切り上げて出発。



芝草平で一服

下山中に一瞬ガスがきれて紅葉に染まっている山腹を見ることができたのは幸いだった。登山口に15時20分着。公民館駐車場へ戻って解散した。共同浴場でひと風呂あびようとしたが、コロナ禍のため夕方に開湯とのことで入れなかったのは残念でした。



北屏風岳山頂にて

以上

☆晩秋山行(共益事業)

- 実施日:令和2年11月21日
- 山域:五社山
- コース:五社山(沢及び尾根コース)  
樽水ダム湖畔駐車場→登山口→三方塚→  
外山→五社山→登山口→樽水ダム湖畔駐  
車場
- 参加者:太田正、鳥田笑美、加藤知宏、  
富塚和衛、富塚真味子、佐藤昭郎(以上会  
員)、村上敏郎、庄子美佐子、鳥田伊志、  
津久井宏(以上支部友)
- 報告者:太田正

樽水ダム湖畔公園に集合。10名の参加者で樽水ダム上流県道118号線脇登山口に移動し入山。コースに入りまもなく宮城県で設置した「名取市愛島北目字外山一番地の上流端を示す標柱」と記された立派な標柱と出会う。これは増田川源流を指すもので、ここから沢沿いに登山道を進む。



やがて登山道もなくなり沢に入るが、时期的に雨量も少なく暑くもない今回は最も良い季節であろう。2時間弱で三方塚方面の尾根に突き上げる沢を離れ、右方向の尾根(少しやぶ漕ぎ)に取り付き20分程で尾根の登山道に出る。ここからはほんとのハイキングコースで、三方塚、外山、と快適に歩き、五社山でゆっく

り昼食をとり、再度、標柱のある場所に一周して戻り、118号線脇登山口に出て終了する。

いつもの山行だが若い人は2人のみで、あとは70代または近い方。ほとんど人が入らない登山道もない変な場所を歩き、喜々としているポジティブな方々、増々元気ですぬ。



五社山山頂

☆初冬山行(共益事業山行)

- 実施日:令和2年12月13日(日)
- 山域:薬菜山553m(加美郡加美町)
- コース:やくらいガーデン駐車場—登山口標識—南峰—北峰—《昼食》—北登山口—やくらいガーデン駐車場
- 参加者:(会員)富塚和衛、富塚真味子、鳥田伊志、鳥田笑美、加藤知宏(準会員)新井田裕治(支部友会会員)村上敏郎、庄子美佐子(計8名)
- 報告者:加藤知宏

2020年はコロナ禍のため、山行を自粛する期間があったが、12月の月例山行は薬菜山にて無事行うことができた。

当日は、やくらいガーデン駐車場に到着した時点で吹雪いていた。やくらいガーデン駐車場から登山口標識に続く桜並木の道を500mほど山に向かって登る。樹林帯に入ると登山口と記された標識があり、そこから急登



が始まった。樹林帯は雪が積もり完全な冬山の体を成していた。少し登ると薬菜山名物の706段の急な階段が出てくる。ここが薬菜山登山の一番の難所である。メンバーの登るペースや疲労度を見ながら、ゆっくりゆっくりと登り続ける。他に登っている登山者とも談笑しながら、辛い階段を登りきると、傾斜が緩くなる。この時点で朝から吹雪いていた天気は雪が止み、曇り空となっていた。広葉樹の尾根道を進むと、薬師堂のある南峰に到着した。船形連峰を望む南峰は宗教上の山頂で、三角点は北峰にある。途中の暗部には姥神の石像がある。怖い顔をしているが、病気治癒や商売繁盛にご利益のある神様である。北峰の薬菜山山頂に到着すると、東側の展望が開け、鳴瀬川や大崎平野が一望できた。ここで小一時間ほど昼食休憩をとる。



下山は北へと一直線に下る。道は雪でぬかるんでおり、慎重に下山する。北登山口まで下ると、舗装道路に出た。ここからはやくらいガーデンに向けて平坦な車道を30分程度歩く。午後1時5分にやくらいガーデン駐車場に到着した。メンバー皆元気な様子で、ほぼコースタイム通りで到着することができた。

今回山行の総括として、出発時点で吹雪という悪天候な状況だったこともあり、ペース配分の難しさを感じた。今後の山行でリーダーを務める際は、メンバー各員の疲労度、歩くスペース、休憩のタイミングなど全体を掌握

しながら落伍者が出ないように努めていきたいと思う。

最後に、多くの方に参加いただき、ありがとうございました。



薬菜山山頂

#### 【今後の行事予定】

- 2021年1月
  - ☆1月1日(金)  
泉ヶ岳元旦登山
  - ☆1月中旬  
宮城山岳通信第22号発行
  - ☆1月20日(水)  
定例役員会(仙台シルバーセンター)
  - ☆1月30日(土)  
全国支部連絡会議(本部主催)
- 2021年2月
  - ☆2月18日(木)  
定例役員会(仙台シルバーセンター)
  - ☆2月28日(日)  
厳冬期山行
- 2021年3月
  - ☆3月17日(水)  
定例役員会(仙台シルバーセンター)
  - ☆3月20日(土)  
会計監査
  - ☆3月28日(日)  
早春山行
- 2021年4月
  - ☆4月26日(月)  
支部定例総会(仙台シルバーセンター)

(事務局担当)

### 【編集後記】

1月中旬発行の予定の「宮城山岳通信第22号」(10月、11月、12月期)は、1ヶ月遅れの発行となりました。宮城山岳通信はニュースレターの役割を担うべき機関誌であるにも関わらず、発行が遅れ会員等の皆様にはご迷惑をお掛けしたことに對しお詫び申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大の影響は引き続き事業の自粛などを余儀なくされて居りますが、今後とも、しばらくの間は健康を第1に蜜を避けた支部活動を行っていく事となると思います。このような状況下にはありますが、休まずに、極力タイムリーに発行して行く事が会報・編集出版委員会の与えられた務めだと考えておりますので、今後とも宮城支部の関係者の皆さんにはご支援のほど宜しくお願い申し上げます編集後記といたします。

会報・編集出版委員長 富塚和衛

宮城山岳通信

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2021年2月10日 発行人 富塚和衛

会報・編集出版委員会 富塚和衛 千石信夫 細川光一 三宅泰 鳥山文蔵

事務局 983-0821 仙台市宮城野区岩切字畑中 9-12